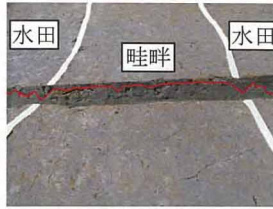
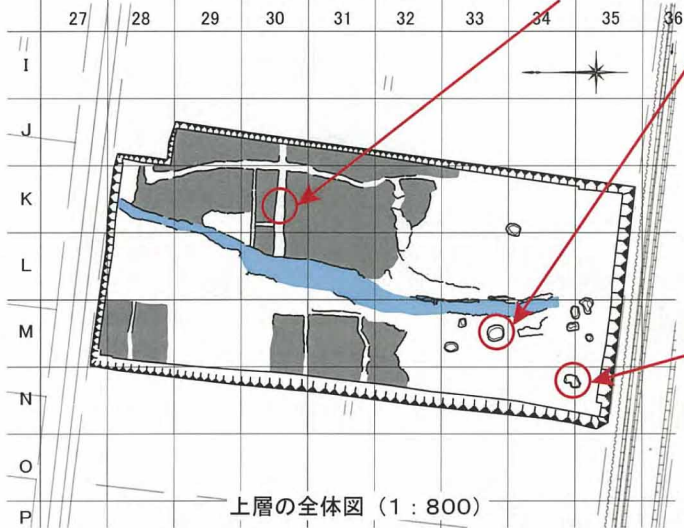


### 3 上層の調査 (VI・VII層)

水田は、主に北東部で見られました。水田区画は、下層よりも大きく、約10m四方のものが多いです。水田の基軸は下層とは異なり、東西南北方向できれいに区画されています。畦畔の一部には、黒色土を盛って作ったものも確認されました。水路は下層に比べて少なく、中央の大きなもののみです。これは下層で見られた溝と方向が一致することから、埋りかけた状態で利用したものと考えられます。

また南側を中心に、深さ50～100cmの土坑が10基見られました。底面に帯水層があることから、井戸等の水溜としての機能が考えられます。土層の堆積は一定でなく、意図的に埋めていると推定できます。



畦畔の断面

畦畔は踏抜痕が無いので、部分的に高く盛り上がっています。



土坑の断面

黒い土と白い土が乱れて堆積していることがわかります。



土坑の完掘状況

掘りあがると、深さ80cm以上の深い穴になります。

### 4 出土した遺物

遺物は、平安時代、中世 (14世紀) のものが出土しています。多くは、復元が困難な磨耗した土器です。これらは水田耕作に伴い、攪拌されたものと考えられます。写真の土器は、それらと異なり遺構から出土したものです。本遺跡が単に生産域だけでなく、生活域と密接に関わっていたことを示唆しています。



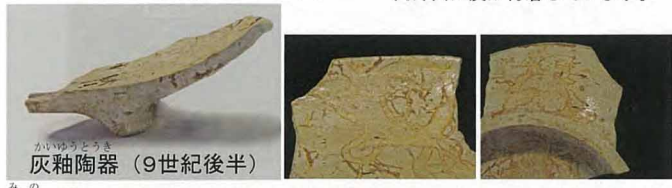
井戸の底から完全な形で出土しました。当時の日常生活具です。内外面に炭が付着しています。



焼けて炭となったため、腐らずに残っています。



近くでよく見ると、米の一粒一粒が確認できます。



美濃 (現在の岐阜県) で焼かれた灰釉陶器が出土しました。平安時代以前の土器は、釉薬を用いないものが一般的です。これは釉が施され、きれいな光沢が認められます。



## 柏崎市宝田遺跡現地説明会資料



平成25年10月5日 (土)

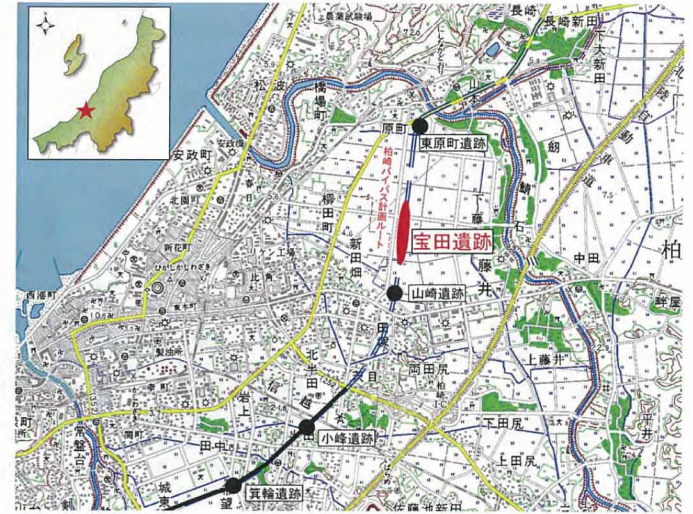
国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所  
新潟県教育委員会  
財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

### 1 はじめに

宝田遺跡は、柏崎平野北西部の鯖石川左岸に広がる水田地帯のほぼ中央、標高約4.5mの沖積地に位置します。南北670mの範囲に古代～中世にかけての水田跡が広大に営まれている大きな遺跡です。

発掘調査は、国道8号柏崎バイパス事業に伴い実施しています。今年度は平成25年4月から11月までの期間に、古代から中世の水田跡2～3面の延べ9,500㎡を発掘調査する予定です。

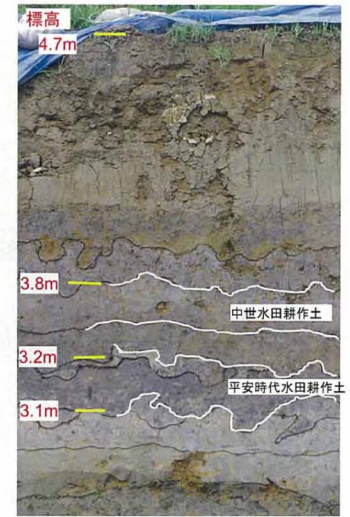
9世紀末から10世紀初頭の平安時代の水田跡は、地形に即応した水田造成の様子を窺い知ることができます。



遺跡の位置



調査区全景 (上空北から)



基本層序